

《参考》

国道2号茶屋交差点整備検討会(第1回開催結果)

[概要]

第1回の検討会では、山口大学 理工学研究科 田村准教授をコーディネーターに、地元住民代表者や船木小学校、楠中学校の学校関係者、宇部警察署、道路管理者（宇部市、山口県、国）などの参加により、茶屋交差点などの現状や交通安全上の課題などについて、意見交換を行いました。第2回目の検討会では実際に現地を点検し、共通認識を持つことにしています。



▲ 第1回検討会の開催状況(11月5日)

[主な意見]

◇茶屋交差点について

- ・茶屋交差点では右折のため、道を譲ってもらっても、他の市道に信号が無いため車が出てきて危ない。(学校)
- ・地元の人をよく分かっているが、他県から来た人などは5枝の変則交差点なので迷って立ち往生することもある。(地元住民)
- ・市道から国道に入る時、信号が無いため危険。(地元住民)
- ・横断歩道橋があるが、実際は自転車や手押し車の老人などは歩道橋が利用できず国道を横断する人も多い。横断歩道を設置して欲しい。(学校、地元住民)
- ・子どもの登下校を見ていると、本当にいつ事故にあってもおかしくないような状況である。横断歩道を学校に近いところで一番早く設置して欲しい。(PTA)

◇船木大橋西詰交差点について

- ・右折レーンが無いいため、右折時にトラックが横を通るときはひやひやする。(学校)
- ・(対向車が見えにくいいため)右折がしにくい。(学校)

◇船木大橋(歩道部)について

- ・子供の目の高さに大型車の車輪が通過し、恐怖感があり排気ガスを顔に受ける。橋の改良をして欲しい。(学校、PTA)



▲ 茶屋交差点(変則5枝)と船木大橋西詰交差点